

# 令和6年度 寒河江市立陵南中学校 経営方針

令和6年度 スローガン（目指す学校像）

## 「生徒も教師も『安心してすごせる学校』の創造」

～ 不登校生徒の減少を目指して ～

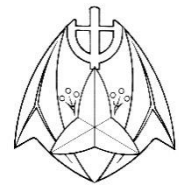
### I はじめに

変動する社会にしなやかに対応し、夢の実現に向けて、主体的にたくましく生きる子どもを育成するために、建学の精神に掲げる「責任」・「信頼」・「誠実」の「3S精神」を貴び、教育目標の達成をめざす。

同時に、昨年度の最大の課題であった「不登校の増加」を改善し、その上に新しい伝統を築くために、「目指す学校像」と「スローガン」を一本化し、全教職員が目指すものを一つに絞り教育活動にあたっていきたい。

### II 建学の精神 【3S精神】

- 「責 任」（自己責任） 自分の行動に責任を持つ
- 「信 頼」（相互信頼） 他とよく協力して信頼し合う
- 「誠 実」（誠心誠意） 他を敬い真心を持って接する



### III 校風の樹立 『文武両道 学ぶ喜びに満ち溢れた学校』

### IV 教育目標

#### 1 教育目標

「夢の実現のために、主体的に考え行動する、心身ともにたくましい生徒の育成」

#### 2 めざす生徒像

- (1) 自ら学び、活力があり、自立できる生徒 (知)
- (2) 心豊かで、思いやりのある生徒 (徳)
- (3) 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒 (体)

#### 3 めざす教師像

- (1) 生徒とのふれあいを大切にし、生徒の考えや意見を尊重できる教師  
(「師弟同行」「率先垂範」「啐啄同時」)
- (2) 自らに厳しく、進んで学び続ける教師 (「自己理解」「自己管理」「日々研鑽」)
- (3) 経営参画意識を持ち、積極的に取り組む教師 (「所属意識」「報・連・相・提」)
- (4) 心身の健康に配慮し、明るく、社会人としての礼節をわきまえた教師  
(「礼儀・挨拶」「ワーク・ライフ・バランス」)
- (5) 凡事徹底を意識した上で、何事にもチャレンジ精神で取り組む教師  
(「当たり前のことを当たり前」「働き方改革」の遂行)
- (6) 教育公務員としての責任を自覚し、常に危機管理意識を持つ教師  
(「まさか」は起こり得るという意識を常に持つ)

### V 経営方針

#### 1 安心してすごせる学級集団づくりを目指す

学級は、学校生活の中で一番長い時間を過ごす場所である。その空間が、安心して過ごしやすい場でなければ、学校に登校することが苦しくなるだけである。

そこで、学級活動を充実させることで、生徒が安心して過ごせる学級づくりを行っていきたい。また、その過程で、生徒指導の3機能（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供）を生かし、自治能力のある学級集団を目指す。

## 2 「わかった」「できた」を実感させる授業づくりを目指す

リーディングスキルテストの結果が、全国平均を大きく下回る学年がある。また、どの学年においても定期テストの結果において、点数の二極化が見られる状況にある。

学校を休みがちになった生徒の話には、「勉強がわからない」という思いが語られることも少なくない。

そのことを受け、今求められている学力を念頭に置きながらも、それを重視することより、「わからないからもういい」と授業に参加することをあきらめる生徒を出さないことに重点を置いた授業を目指すようにする。

また、すでにわからないとあきらめている生徒を、授業に向かわせるため、「できた」「わかった」という思いを少しでも体験させることで、学習に向かえない生徒を減らしていきたい。

## 3 教員の生徒・保護者理解の力量を高め、チームで対応する体制を構築する

生徒個々の「ニーズや困り感」を感じ取ったり見取るアセスメントの力をつけるとともに、生徒が話しやすかったり、相談しやすい教員となるよう研修に努めていく。また、いじめや不登校、問題行動等の未然防止と早期対応に向けて、生徒指導力と教育相談力、特別支援教育力を融合し、活用していく必要感を持たなければならない。さらに、課題を解決し、生徒と保護者の身になって対応していくために、教師同士やSC、外部機関や保護者などと協力するチーム支援体制を構築していく必要がある。

保護者に対しては、対峙する形にならないためにも、常に同じ方向を向き、連携することを意識して対応し、学校が「説得する」形から保護者が「納得できる」形にできることを目指していく。

# VI 具体的な施策

## 1 安心してすごせる学級作りのために

- ① 学校研究として、学級活動を位置づけ、全校で取り組みを推進する。
- ② 特活主任が中心となり、「生徒指導の三機能」を生かした活動を提案する。
- ③ 活動の成果を確認し、次の活動に生かすため、年2回のQ-Uテストを実施する。
- ④ 「いじめ」に対するアンテナを高くし、事案を共有し、内容に応じた適切な対応を組織で考え、迅速に対応する。

## 2 「わかった」「できた」を実感させる授業づくりのために

- ① 協働的な学習と個別最適化された学習、教師が教える学習のバランスを考え実施する。
- ② 学習に意欲的に参加できない生徒に対する対応を意識した授業を実施する。（1時間でも1回でもいいので何らかの係わりをつくる。等）
- ③ 教科部会を利用して、お互いの授業を見合う時間を年1回以上実施する。

## 3 教員の生徒理解の能力を高め、チームで対応する体制を構築するために

- ① 生徒理解の研修会を位置づける。
- ② 特別支援コーディネーター会議が中心となり、ケース会議の必要性を提案し、実施する。
- ③ 別室を、学級に入れない生徒の居場所とし、そこから社会性を身につけるステップを踏ませるよう進めていく。
- ④ 教員の働き方改革を推進し、万全の体制で生徒指導に当たれる環境をつくる。

# V その他

## 1 地域移行を見据えた部活動改革の推進

- ① 寒河江市の段階的な改革案に沿った取り組みを確実に実施する。
- ② 市教育委員会と連携し、生徒の受け皿となる活動団体の設立に協力する。
- ③ 部活動のねらいを焦点化し、効果的な指導方法を工夫する。

## 2 コミュニティ タイムの効果的な運用

- ① 木曜の放課後はフリータイムとし、地域が生徒に伝えたいことを伝える場として活用する。
- ③ 学校運営協議会による広報と評価を実施する。

